

(仮 訳)

プレス・リリース

2013年7月8日
バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会による
バーゼル自己資本規制におけるリスク感応度、簡素さ、比較可能性の
バランスに関する問題提起

本日、バーゼル銀行監督委員会(以下、「バーゼル委」)は、バーゼル自己資本規制におけるリスク感応度、簡素さ、比較可能性のバランスに関するディスカッション・ペーパーを公表しました。

バーゼル委は、金融危機に対応する形で、ショックに対する銀行システムの耐性を十分に高めることを企図した一連の改革を行いました。こうした改革に加えて、2012年にバーゼル委は、少人数のメンバーにより構成されたグループ(簡素さと比較可能性に関するタスクフォース)に対し、バーゼル自己資本規制の枠組みの見直しに取り掛かるよう命じました。このタスクフォースの目的は、規制枠組みにおける過度の複雑さを取り除く機会を確認し、かつ規制から生じる結果の比較可能性を高めることにあります。このタスクフォースは、リスクのカバレッジが拡大し、より高度化されたリスク計測方法が導入されるにつれて、規制枠組みも時代と共に絶えず変化してきたことを背景に創設されたものです。

本日公表されたディスカッション・ペーパーは、現在の規制枠組みが変化してきた背景について論じ、よりリスク感応度の高い枠組みが有する潜在的な利益とコストを概説しています。また、このペーパーは、リスク感応度、簡素さ、比較可能性の間で適切なバランスを取り続けるという目的に則って、規制枠組みのさらなる改革に繋がり得るアイデアについても論じています。

このディスカッション・ペーパーの目的は、バーゼル委による今後の検討の一助とするため、この重要な課題についての意見を求めることにあります。現時点では、バーゼル委はペーパーで提起されているアイデアを追求すべきかどうかについて判断を下していません。このペーパーは利害関係者からコメントやフィードバックを求めるために公表されたものです。こうしたコメントは、バーゼル委がこの分野に関する検討を進めていくために役立つでしょう。さらに、バーゼルⅢの完全、適時かつ一貫した実

施は、健全な金融システムの構築、自己資本比率に対する信任の維持、国際的に活動する銀行に対するレベル・プレーイング・フィールドの提供にとって礎となるものと、バーゼル委は引き続き確信しています。バーゼルⅢによる改革(量・質共に高水準の資本、リスクカバレッジの改良、資本バッファ、流動性規制)を、国際的に合意された移行期間に沿う形で導入することは、それ自体が国際的な銀行規制の一貫性を高めるための、重要なステップです。

バーゼル委議長を務めるリクスバンクのステファン・イングベス総裁は、本日の公表に際し、「バーゼル委は、既存の規制枠組みの複雑さについて現在行われている議論を十分に認識している。そうした論点を検討するため、バーゼル委は昨年タスクフォースを創設した。バーゼル委は、現在の規制枠組みに対して何らかの変更を加えることを判断する前に、この重要な課題について更なる意見を求めることにメリットがあると確信している。本日公表されたペーパーは幅広い利害関係者間での議論を促進し、その意見を求めることを目的としている」と述べました。

バーゼル委はこのディスカッション・ペーパーに概説された論点に対する意見を歓迎します。コメントは**2013年10月11日**までに電子メールで baselcommittee@bis.org 宛にご提出下さい。あるいは、「スイス連邦、CH-4002 バーゼル市、国際決済銀行、バーゼル銀行監督委員会事務局」宛にコメントを郵送することもできます。全てのコメントは、コメント提出者が明示的に機密扱いを要求しない限り、国際決済銀行のウェブサイトに公表されることがあります。

背景

バーゼル委は、2007年に始まった金融危機に対応して、ショックに対する金融システムの耐性を十分に向上させるための、数々の改革を行いました。こうした手法には、銀行の自己資本比率規制の枠組み自体を強化するものもあり、銀行の健全性を確保するために同規制を補完するものもありました。こうした手法には、レバレッジ比率、グローバルなシステム上重要な銀行(G-SIB)向けの追加的な資本サーチャージ、大口与信の計測と管理の枠組み、流動性に係る最低基準の導入などが含まれます。さらに、バーゼル委は銀行や国・地域におけるバーゼルⅢの施行を確認する目的で、規制上の整合性評価プログラム(RCAP)を導入しました。